Osaka University Knowledge Archive

Title	吐魯番出土文物研究会会報　第106号
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 1995, 106, p. 1-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78917
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

吐魯番出土文物研究会会報　第１０６号

１９９５年８月１日

吐魯番出土文物研究会

■目　次■

第７回吐魯番出土文物研究会大会のご案内 …… 1

〈新著紹介Ⅱ〉侯　燦「高昌建昌六年（５６０）麴惇墓表考補」／孟憲実「吐魯番出土張行倫墓志考読」 …… 2

〈紹　介〉『吐魯番出土文書』図版釈文対照本・第２冊 …… 4

〈会員の研究成果（1994年８月～1995年７月）〉 …… 4

〈『吐魯番出土文物研究会会報』（第 102号～第 106号）総目次〉 …… 6

第７回吐魯番出土文物研究会大会のご案内

昨年に引き続き今年も吐魯番出土文物研究会の大会を開催いたします。今回は第７回大会となりますが、下記のように、会員による研究発表のほかに、新しい試みとして若手の学徒による話題提供やミニ・シンポジウムを企画いたしました。また龍谷大学大宮図書館における大谷文書の閲覧も予定しております。

【記】

期　間：７月31日（月）～８月２日（水）／２泊３日

宿　舎：本願寺門徒会館／京都市下京区花屋町通堀川西入ル・TEL075(361)4436

集　合：７月31日午後５時・本願寺門徒会館

日　程：７月31日夜　顔合わせと日程の確認／今後の研究会の活動予定と会報の発行予定について

８月１日午前・午後　話題提供・研究発表（会場：龍谷大学文学部棟）

夜　懇親会（会場未定）

８月２日午前　ミニ・シンポジウム（会場：龍谷大学文学部棟）

午後　大谷文書閲覧（会場：龍谷大学大宮図書館）

［話題提供（発表20分・質疑10分）／研究発表（発表45分・質疑30分）］

（午前の部）

話題提供（Ⅰ）

竹内　智子

話題提供（Ⅱ）

伊藤　敏雄

旅順・新疆旅行報告（その１）

片山　章雄

（午後の部）

敦煌祁家湾西晋十六国墓とその出土品にみる二、三の特徴

井上　徳子

唐西州文書にみえる「×頭」について
－その統一的理解をめざして－

關尾　史郎

唐西州における逓送体制について

荒川　正晴

［ミニ・シンポジウム］
麹氏高昌国
－その独立国家としての性格をめぐって－

浅田かおり

麹氏高昌国末期の外交から

本間　寛之

コメント（Ⅰ）
－北アジア史研究の立場から－

北條　祐英

コメント（Ⅱ）
－中央アジア史研究の立場から－

白須　淨眞

（以上）

‡新　著　紹　介　II

◆侯　燦「高昌建昌六年（５６０）麹惇墓表考補」

（『西域研究』1993年第４期　73～76）

◆孟憲実「吐魯番出土張行倫墓志考読」

（『新疆師範大学学報』1993年第２期　67～73）

いずれも、新疆師範大学のスタッフ（当時）によるトゥルファン出土墓志に対する個別的で詳細な分析。

前者が取り上げたのは、1950年代に存在が報告されながら、その後所在が不明だった墓志で、1990

年代に入ってからようやく写真が公表されたもの（北京図書館現蔵）。著者は釈文を提示しつつ、墓主の麴惇とその官歴に見える官職を中心に検討を試みている。

著者はまず官歴から、麴惇が王室麴氏の一員であり、年代からして「麴斌造寺碑」(555年）に見えている「廣威將軍・綰曹郎中麴」こそ麴惇にほかならないとする。ついで官職の検討を行なうが、墓志に記載されている麴惇の官歴は、①長史・廣威將軍・領兵部事→②横截令→③宿衞事→④吏部郎中・宿衞事→⑤綰曹郎中→⑥建威將軍・綰曹郎中→⑦鎮遠將軍・都郎中（贈官）であり（①と②の中間に「□武城縣」の４文字があるが、これは解釈を保留したい）、建威將軍に昇進するまでは一貫して廣威將軍だったとすれば、⑤が「廣威將軍・綰曹郎中麴」に一致するわけである。しかし著者によれば、官職が長史→県令→郎中→綰曹郎中と上昇するにもかかわらず、將軍号はこの間上昇せず、綰曹郎中に昇任後ようやく廣威から建威に移るのみで、最後までバランスを欠いたままである。また綰曹郎中の上位にさらに都郎中なる名誉職的な官職があったことや、武城・横截両県が既に設置されていたことなどを確認している。

「麴斌造寺碑」に登場しているか否かはともかく、麴惇が王室麴氏の一員であることは著者の指摘のごとくであろう。また官歴や官職に対する著者の見解もおおむね首肯できよう（著者の見解の前提になっているとおぼしき自身の官制研究に、検討の余地があることはおくとしてだが）。しかし問題とすべき点はほかにもある。例えば、横截令について「出爲」とあるのに対し、次の宿衞事について「入補」とあるのはどう解釈したらよいのだろうか。太守も県令も中央官が兼任する、つまりは遥任というのが、高昌国における通例だったからである。横截県は著者もいうように東北方面の要衝だったので、特例として実際に赴任したのであろうか。あるいはこの場合、「出爲」と「入補」というのは、中央官制における外官と内官の区別を示しているのあろうか。疑問は尽きない。

一方後者が取り上げているのは、72TAM191から出土した同じ張行倫にまつわる２点の墓志である。そもそも一人の墓主に複数の墓志が作成されるということ自体、稀有の例である。

著者はまず「開元七年八月五日」の紀年を有する墓志(72TAM194:1)と「開元八年八月廿八日」の紀年を有する墓志(72TAM194:2)の内容を丁寧に比較し、前者の紀年に誤りがあること（死亡が８月28日で、埋葬が９月５日なので、前者は９月を８月に誤った可能性あり）、前者の墓主の姓名記載が不完全であること、および墓主の曽祖・祖・父の高昌国時代の官歴が、前者では簡略に過ぎる（祖については前者が誤りとする）ことなどを根拠にし、前者は早急に作成されたがゆえに誤脱が多く、そのために後者が急遽あらたに作成されたと判断する。ついで墓志の内容について検討し、最後に両者の釈文を掲げている。

２点の墓志の相互関係に関する著者の解釈は妥当と思われるので、ここでは墓志の内容に関する著者の検討を紹介しておきたい。著者は墓主の父の高昌国時代の官職「太教學博士」と、墓主自身の「版授」について検討を試みているが、このうち「太教學博士」について、他の墓磚史料に見えている「學博士」や『魏書』の「博士」、さらには墓主の祖が歴任した「通事教郎」などと同類の官職であって、高昌国でも学官制度が確立していたが、その品階はきわめて低かったとする。最後の点については、就官者の唐西州時代以後の官職を追跡することを通じての成果で説得力がある。ただしこの「太教學博士」も「學博士」も、唐西州時代に作成された墓志にしか確認できず、はたして「博士」とは別にこれらの官職が実在していたのであろうか、という疑問がのこる。また「通事教郎」も同類の官職とし、祖と父の２代にわたってかかる官職を歴任するということは、当時の学術のあり方を反映しているとまで著者はいうが、この官職は前者の墓志では「門下司馬」となっており、こちらが誤りで「通事教郎」が正しいと断言してしまってよいのだろうか。「門下司馬」が正しいという根拠もないが（むしろ誤りである可能性が高いのだが）、中国王朝でも見られない官職名を直ちに実在した

と認め、さらには職掌まで云々するのには、やはり躊躇を覚えるのである。（關尾）

■紹　介：『吐魯番出土文書』図版釈文対照本・第２冊

本年５月に北京を訪れた際、中国文物研究所の王素先生より、表題の対照本第２冊を恵与されたので、この余白を借りて紹介しておきたい。第２冊は第１冊と同じく、文物出版社発行・精装・Ｂ４版で、奥付は1994年９月となっているが、なお書店の店頭にはないもようである。目次20頁、カラー図版２頁に続き、本文に相当する対照部分が 350頁ほどである。第１冊より薄くなっているが、定価は 400元と２倍以上になっている。

第２冊に収録されているのは、麴氏高昌国時代から唐西州時代にまたがる墓から出土した文書で、ほぼ釈文本の第４冊と第５冊に相当する。ただし釈文本第４冊末尾に「補遺」として掲載されていたTAM517と TAM99の２基については、対照本では第１冊に収録されたため、ここにはない。しかし釈文本の第２冊にあった TAM84については、唐代の墓誌（「唐年次未詳某相墓誌」）が出土したため、対照本ではこの第２冊の冒頭に配されている。このほか釈文本には収録されていなかったTAM504、 TAMX2(Xの意味は不詳である)、 およびTAM526の３基から出土した文書が新たに加えられた。

個別の文書では、釈文本第４冊所収のTAM103出土、２断片からなる「唐貞觀十八（六四四）西州高昌縣武城等鄉戸口帳」（68TAM103:20/4,20/5）を分割して、第１断片を「唐貞觀十八（六四四）年西州某鄉戸口帳」、第２断片を「唐（年次未詳）西州高昌縣武城鄉戸口帳」としたほか、以下のような改正点がある。釈文本第５冊所収のTAM337出土、「高昌延昌八（五六八）年寫《急就章》古注本」の整理番号 60TAM337:11を 60TAM337:11/1（一～七）とあらため、新たに 60TAM337:11/1（八）を「高昌延昌八（五六八）年寫《急就章》古注本殘片」としている（ただし釈読はない）。同じく釈文本第５冊所収のTAM338出土、干支のみの「唐貞觀十八（六四四）年張阿趙買舍契」(60TAM338:14/5) は、「高昌甲辰歳張阿趙買舍契」にあらためられた。さらに同TAM117出土、「（年次未詳）某人買葡萄園契」(69TAM117:57/2) は、葡萄園の売買契約は唐西州時代には見られないという理由で、表題はそのままながら麴氏高昌国時代文書の最後に挿入された。

以上が主な改正点であり、いずれも文書研究の成果が生かされている。また対照本第１冊と同様、釈文本には収録されなかった多数の「文書殘片」の写真が掲載されているが、そのほとんどは釈読に多大な困難がともなうようである。しかしかかる断片は、剥離し析出することさえ、けっして容易ではなかったであろうから、この一点からも、王素氏をはじめ編集担当者の方々のご苦労が偲ばれる。（關尾）

‡会員の研究成果（1994.8～1995.7）

○荒川　正晴

＊「唐代コータン地域のｕｌａγについてーマザル＝タ－ク出土、ｕｌａγ関係文書の分析を中心にしてー」『龍谷史壇』第 103・104 号　1994年12月　17～38

＊（再録）龍谷大学史学会編『小田教授華甲記念史学論集』龍谷大学史学会　1994年12月　17～38

＊（漢訳）「唐代于闐的“烏駱”－以tagh麻扎出土有関文書的分析為中心－」『西域研究』19

95年第１期　1995年３月　66～76
＊「北庭都護府の輪台県と長行坊－アスターナ 506号墓出土、長行坊関係文書の検討を中心として－」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』小田義久先生還暦記念事業会　1995年７月　93～126
＊「書評：山田信夫著，小田壽典・Ｐ．ツィーメ・梅村坦・森安孝夫編『ウイグル文契約文書集成』Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」『史学雑誌』第 103編第８号　1994年８月　109～119

○片山　章雄
＊「高昌吉利銭について」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』（前出）　77～92
＊（漢訳）「関于高昌吉利銭」『西域研究』1995年第１期（前出）　58～65
＊「風と砂のオアシス都市　楼蘭の遺跡－その歴史と現状－」『ラボの世界』第 182号　1995年１月　６～７
＊「大論争を巻きおこした「さまよえる湖」ロプノールの真相」『Newton』第15巻第３号　1995年３月　72～73
＊「シルクロードの地理と歴史」『清泉文苑』第12号　1995年３月　19～21
＊「スウェン・ヘディンと大谷光瑞－交友初期の一齣－」『清泉文苑』第12号（前出）　49～51

○白須　淨眞
＊「上原芳太郎『外遊記稿』所収の「南船北馬」－その解説と録文－」『龍谷史壇』第 103・104 号（前出）　70～143
＊（再録）龍谷大学史学会編『小田教授華甲記念史学論集』（前出）　70～143
＊「上原芳太郎『外遊記稿』について」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』（前出）　517～571

○關尾　史郎
＊「「高昌延壽元（六二四）年六月勾遠行馬價錢勅符」をめぐる諸問題」（上）『東洋史苑』第42・43号　1994年３月　62～82
＊「トゥルファン出土高昌国税制関係文書の基礎的研究－條記文書の古文書学的分析を中心として－」（七）『人文科学研究』（新潟大学人文学部）第86輯　1994年12月　１～26
＊「「高昌年次未詳入作人・畫師・主膠人等名籍」試釈」『龍谷史壇』第 103・104 号（前出）　１～16
＊（再録）龍谷大学史学会編『小田教授華甲記念史学論集』（前出）　１～16
＊「「佃人文書」新探－「堰頭」の性格と職掌に関する予備的考察－」森田明編『中国水利史の研究－中国水利史研究会創立三十周年記念－』国書刊行会　1995年３月　163～186
＊「「冠帯之國」拾遺－突厥の衣冠制導入を中心として－」『環日本海研究年報』（新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室）第２号　1995年３月　117～128
＊（大西康裕と共著）「「西涼建初四年秀才對策文」に関する一考察」『東アジア－歴史と文化－』第４号　1995年３月　１～20
＊「論“作人”」『西域研究』1995年第１期（前出）　51～57
＊「高昌国「丁輸」考－アスターナ四八号墓出土高昌国役制関係文書の分析－」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』（前出）　51～76
＊「内陸アジア（一）－1994年の歴史学界・回顧と展望－」『史学雑誌』第 104編第５号　1995年５月　265～269

○町田　隆吉

＊「六～八世紀トゥルファン盆地の穀物生産－トゥルファン出土文書からみた農業生産の一側面－」『中国古代の国家と民衆』編集委員会編『堀敏一先生古稀記念　中国古代の国家と民衆』汲古書院　1995年３月　633～648

＊「中国前近代における民族と国家－「五胡十六国」・北朝史に関する教科書叙述を例に－」中村義編『新しい東アジア像の研究』三省堂　1995年７月　251～270　（以上）

‡『吐魯番出土文物研究会会報』（第 102号～第 106号）総目次

○第 102号，1994年11月１日発行

＊第６回吐魯番出土文物研究会大会の記録

活動報告

発表要旨

山口　洋「吐魯番出土文書中の高昌郡関係文書」／荒川正晴「唐代コータン地域の ulaγについて－マザル＝タ－ク出土、ulaγ関係文書の分析を中心にして－」／片山章雄「高昌吉利銭について」／町田隆吉「６～８世紀のトゥルファン盆地の農業生産－トゥルファン出土文書からみた農業生産の一側面－」／白須淨眞「大谷探険隊に関する新たな資料の紹介－上原芳太郎の記録資料と上原が整理を試みた一群の資料について－」

○第 103号，1995年２月１日発行

＊關尾史郎編「吐魯番出土文物関係論著目録（稿）－1992・中文篇－」

＊關尾史郎「吐魯番出土漢文墓志索引稿（補遺）－吐魯番地区文管所「1986年新疆吐魯番阿斯塔那古墓群発掘簡報」について－」

○第 104号，1995年５月１日発行

＊新著紹介

吐魯番地区文管所（柳洪亮執筆）「1986年新疆吐魯番阿斯塔那古墓群発掘簡報」／王素「吐魯番出土張氏高昌時期文物三題」／孟憲実「関于麴氏高昌王朝地方制度的幾個問題」／王新民「麴氏高昌与鉄勒突厥的商業貿易」／王尚達「唐朝前期西北交通之経営」

○第 105号，1995年７月１日発行

＊關尾史郎編「敦煌出土四～五世紀陶罐・陶鉢銘集成（Ⅲ）－附、敦煌、嘉峪関・酒泉陶罐・陶鉢出土古墓群一覧－」

○第 106号，1995年８月１日発行

＊第７回吐魯番出土文物研究会大会のご案内

＊新著紹介Ⅱ

侯燦「高昌建昌六年（５６０）麴惇墓表考補」／孟憲実「吐魯番出土張行倫墓志考読」

＊（關尾史郎）「【紹介】『吐魯番出土文書』図版釈文対照本・第２冊」

＊会員の研究成果（1994年８月～1995年７月）

＊『吐魯番出土文物研究会会報』（第 102号～第 106号）総目次　（以上）

事務局（連絡先）　〒182 東京都調布市国領町５－19－14
荒　川　正　晴　方　　TEL　0424(81)4633
吐魯番出土文物研究会（The Research Society for Turfan Relics）